

今、熊本かがやきの森支援学校では・・・(分教室プールでの学習 その14)

6月26日から、分教室でもプールでの学習が始まりました。

分教室での教育ですが、障がいの状況によって通学することが難しいためにベッドサイドで授業を受けるベッドサイド授業と、くまもと江津湖療育医療センターから分教室の教室へ登校してきて授業を受けるという、2パターンの教育を実施しています。

また、分教室で教育を受けている児童生徒の年齢層も幅広く、小学部2年生の児童から40代半ばの高校部生徒も在籍され、学校生活を楽しまれています。

プールでの学習を行うにあたっては、医療センターから入水の可否や入り方、入水時間等、児童生徒一人一人の状況に応じながら、判断や指示を仰ぐようにしています。また、支援を行う職員は、本校舎で実施された理学療法士の楠本敬二先生の研修も受講している為、効果的にフロートを使いながら、一人一人の学習目標に応じて、適切に対応することが出来ているようでした。

分教室は、本校舎のような室内温水プールが設置されているわけではないので、外の駐車場の一角にテントを張り、その中に簡易プールを広げて温水を溜め、安全に入水できるようにプールの高さにコンテナを積みステップを作るなど、衛生管理から準備・撤収まで、相当な労力が必要な学習となっています。しかし、この季節限定でしかできない貴重な学習であり、尚且つ、いろんな教育効果が期待出来る活動なので、これからも分教室職員みんなで力を合わせて頑張ってもらいたいと思います。

令和5年6月28日

熊本かがやきの森支援学校長

富永 佐世子